地場産業製品のデザイン改善研究

浅川光臣・森本惠一郎・平田俊也・阿部正人・赤池理恵

Research on improving design for products from the local industries.

Mitsuomi ASAKAWA, Keiichiro MORIMOTO, Toshiya HIRATA,
Masahito ABE and Rie AKAIKE

要　約

地場産業の保有する技術と県産材料を用いて，新奇製品開発の可能性を探った．研磨宝飾分野では，新用途開発を狙い，硯石に加飾したすずり，名刺入れ，印鑑入れの３種類と本県で多用されているアクアマリン，トルマリンを使った指輪３個を開発した．木工分野では，ライフスタイルの変化に伴い家庭内で多用され始めたパソコン，ワープロ用の什器とレターボックスをそれぞれ開発した．試作検討の結果，用途面及びコンセプトに新規性を表出でき，新商品化の可能性があることが分った．

１．はじめに

商品開発を行う場合，市場における消費動向は重要な検討事項である．現在の消費者は，商品知識が豊富で個性的な消費行動をとり，自分流の生活を創るための消費には寛大になってきている．我々は，生活必需品ではなく，自分流の生活創造に必要と思われる周辺の小道具類を，地場既存の技術と材料とで生産可能な範囲に絞り開発した．

２．研磨宝飾関連製品

デスクウェアを３種類と指輪を３個開発した．

瀟洒なオフィスで用いるデスクウェアは，各種各様の素晴らしい製品が市場に溢れている．ここで開発した製品は，研磨宝飾産業で培われた地場の技術を利用し，硯の原石に七宝の釉薬を用いて，カラフルな幾何学模様を象眼状に施した．高級化指向の中で，嗜好性の強い商品は，購買条件のうちの価格については余り問題にされず，高価であっても市場は得られると考えられる．

県内の装身具業界で比較的多く用いられているアクアマリンとトルマリンは，希少性も美しさも素晴らしいので，デザイン上の扱い方次第でエメラルドやルビーに匹敵する価値感を創出することができると思われる．高級化した消費者は，装身具類についてもその価値を知っており，財産価値として所有するもの，ファッションを楽しむために所有するものなどＴ，Ｐ，Ｏを弁えて購入する時代である．ここでは，そのような時代の流れを踏まえてアクアマリン，トルマリンという宝石の価値感に付加価値を付加する試みをしてみた．

２－１　すずり

書道は，このハイテク時代に於いて尚一層隆盛であり，専門家，好事家も多い．最も伝統を重んじる分野の一つといえようが，モダンなイメージを取り入れ，大胆に既製概念払拭に挑んでみた．（写真１，２）

２－２　名刺入れ

名刺交換は，日本のビジネスの中で欠くことのできない慣習である．来訪者と名刺のやりとりをする場合，机上の洒落たケースから取り出して相手に渡す．初対面の相手と打ち解け，互いに知り合う機会を助長する小道具になればとの期待もできる．（写真３，４）

２－３　印鑑入れ

市場には，プラスチックスの成型品が各種出廻っている．印鑑の果たす用途の重要性を考えると，それに相応しいケースに納めておきたいと思う人は多かろう．（写真５）

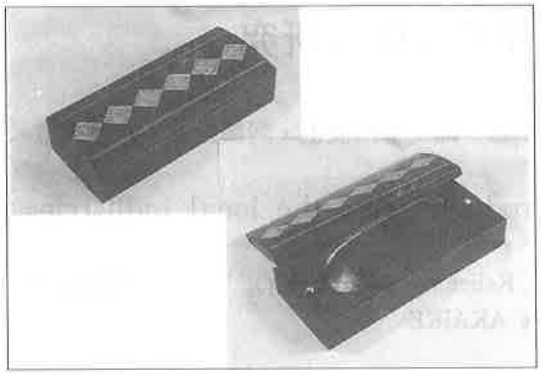

写真１　すずり

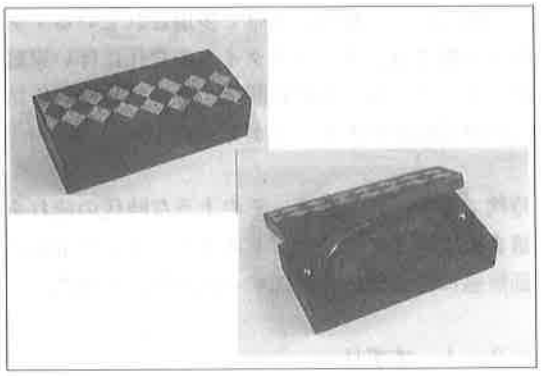

写真２　すずり

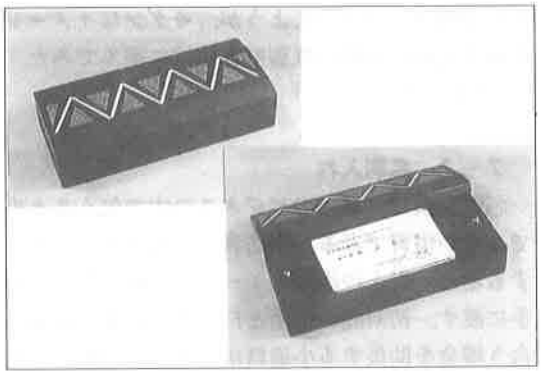

写真３　名刺入れ

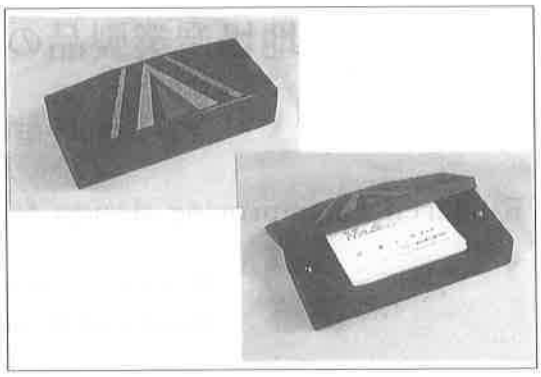

写真４　名刺入れ

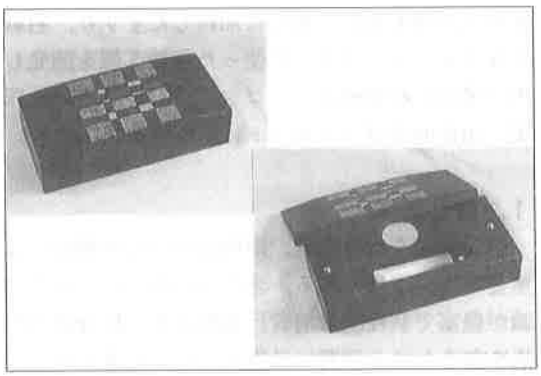

写真５　印鑑入れ

２－４　指　　輪

プラチナと金を組み合せてリングとし，アクアマリンを中石としたもの２個，ピンクトルマリンを中石としたもの１個計３個について，周辺部にメレーダイヤをちりばめ，高級感を表出した．中年層をターゲットにして，デザインと価格を勘案し設定した．（写真６）

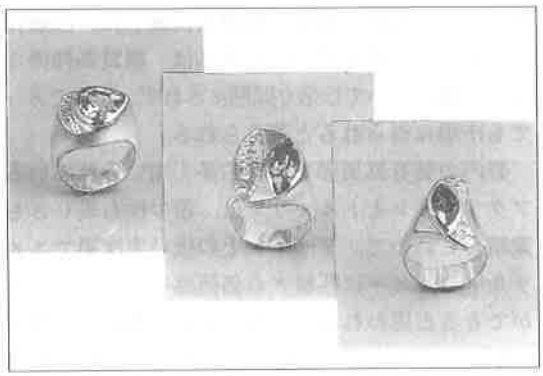

写真６　指　　輪

デスクウェアは，蓋部を3種類共すっきりとシンプルな直線構成の造形処理とし，同一イメージのパターンとした．収納物の違いが造形上には表れていないが，その必要性の有無は次の段階での検討で判断したい．いずれも日本的なことに関わるものの容器を日本的な美観の一つである直線で構成しながら，意図どおりにモダンな雰囲気を表出することができたと考えている．

指輪は，想定したイメージに近い仕上りとはなったが，価格設定等専門メーカーの協力を得て検討をしなければならないと考えている．

3．木製品

家庭で使用する電子機器用什器とギフト向けのレターボックスを開発した．

パーソナルコンピュータ，ワードプロセッサーなどの電子関連機器類は，用途の拡大，低価格化等様々な要因により，オフィス用品からパーソナルユース用品へと領域を拡げている．これらの機器類のための什器は，事務機メーカー等からオフィス空間に調和した機能的什器が各種各様市場に提供されている．しかし，家庭内それも日本の多くの家屋形態に合った什器は市場に殆んど見られない．そこで，市場の空隙を埋めるべく，家庭で使用する電子機器類のための什器開発を行い，一例を試作した．

レターボックスは，県内の木工芸技術を活用したいと考えて開発を試みた．敢えて隆盛を極めているギフト市場をターゲットとした．

3－1　パソコンボックス

パソコン機器類をコンパクトに収納し，作業する場合は扉を開いて行う．最近若年層に好まれているフロアライフ向けに，胡座など直に床に座って操作する形式にした．試作の状況をみると，大体意図どおりの仕上りとなった．外形寸法は，巾880㎜，奥行500㎜，高さ815㎜でうまく納まった．基調色をグレーとし，洋風のイメージでまとめた．和室向けには，同一外観のまま着色を変えることで対応できるが，別途検討する．尚，個有の機能は良いとして，付加機能として移動が楽にできれば好きな場所で作業ができるので，キャスターをつけたタイプも検討したい．（写真7，8）

写真7　パソコンボックス

写真8　パソコンボックス開扉

3－2　レターボックス

利器の進歩は目覚ましく，その利便性から自筆の手紙，葉書による通信は減っている．しかし，文を考え，手書きする情趣は捨て難く大切であると考えられる．とっておきたい手紙類の保管筥を開発した．あか抜けた上品なイメージを意図したが，装飾など再検討が必要と考えている．（写真9）

写真9　レターボックス

4．おわりに

現在の消費者は，一通りの生活用具類は既に手に入れていて，自らのよりよい生活創造のためのゆとりの部分への消費を惜しまない．我々は，この消費動向に注目し，ゆとりの追求からの製品開発を試みた．いずれの製品も地場にある技術や材料を用いて生産可能なものばかりである．地場産業は，小規模故に複雑に見える市場への対応がしやすい一面があり，他方では製品開発力が十分でない一面もある．ここで開発し，提案する製品群を何かヒントにして戴き，企業の商品開発のきっかけの一助になればと考えている．